

E 40 女子青年の人格形成に及ぼす影響について(第8報)  
帯広大谷高 ○山田 昌子

目的 家族関係を構成する上で、女子青年期の経験の認知とそれにもとづいた将来への期待について、現状ではどのように考えているかと検討する。

方法 1. 現在青年期にある女子を中心に将来、家庭生活を構成する上での結婚観、夫婦間関係(夫観、子どもからみた両親の夫婦間関係)、子ども観、育児観について、質問紙を用いて青年期の経験の認知と将来自分が母親になった時の期待とをうべる。

2. 思い現状をもった子についての類型分析を行い、更にケース・スタディにより、上記についてはどうかを検討してみる。

結果 一般的傾向としては、かなり母性的に物事をみており、要求も積極的で強い。また、青年期の様々な経験の認知が将来への期待に大きな影響を及ぼすものとしてみることが出来る。